

発行元:(農)のきの郷
安来市利弘町 922-3
Tel/Fax:22-2580
発行責任者:河津 一行



第 17 号 千 町 田

あけましておめでとうございませす
今年もよろしくお願いいたします



代表理事
山本 耕一

新たな年を迎え皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また旧年中は皆様方に多大なるご協力いただきましたこと厚く御礼を申し上げます。

平成27年度は幸いに黒字決算で終えることが出来ました。しかしその内容は営業(農業)収益がマイナスとなり、その補填は営業外収益(政府交付金)に頼っています。米価低迷する中でこの状況は常態化しつつあります。このまま交付金に頼って先行きが不透明な農政の環境下において非常に苦しく暗いものになると推測します。経営改善を図るなかで経費削減などに取組んでいきますがこれには限界があります。改善を図るとは、その思いに夢を描き、描いた絵を計画・実行に移行して具現化することにあります。しかし



副代表理事
河津 一行



副代表理事
佐伯 正志

それは投資なくして実行は難しいものと考えます。大型農業機械を整備する目的での営農組合設立当初の多額な借入金もあと二年で返済を終えます。これが企画部を創設し新規事業への思い・夢を描いてきたものを事業展開するタイミングと考えます。魅力ある事業導入はおのずから地域の活性化と世代交代を円滑に結びつけるものと考え積極的にアプローチしていきます。草木は冬季に低温にさらされ気温上昇と共に花芽が成長して開花しますが、冬暖かすぎると開花の時期に変調をきたします。のきの郷もこれからが時期到来と考え雇用の創出と農業経営をより一層強固にすることが必要不可欠です。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。



のきの郷の設立から丸3年の月日が経とうとしています。この期間で何が変わったかを考えてみると何も変わっていないように思います。作業者の高齢化、担い手不足は全国的な問題ですが当法人も例外ではありません。また助成金に頼らざるを得ない経営も相変わらずです。そんな中、本年度は新事業にも取組み収益力を向上させなければならぬと考えています。そのためには、まず「人」です。

優秀な若い力を結集する体制を作ることが今の私の課題だと思っています。人を育てるためには時間も経費もかかります。がそれに背を向けてはのきの郷の将来はないと考えます。前途多難とは思いますが、皆様のご理解をお願いいたします。

組合員の皆様にはますます清栄のこととお慶び申し上げます。圃場整備も完成し大型化された圃場での作業にもだいぶ慣れてきたことと思いますが、そういう時こそ安全第一で取り組まなければなりません。昨年度より導入している危険予知活動をより活用推進し、圃場内の事故はもとより移動時の交通事故なども未然に防止するよう努めなければなりません。また体調なども考慮し、無理のない作業計画が重要になってきます。昨年は安全衛生教育の一環として刈払機取扱作業者教育を10名受講しています。草刈り作業におきましては受講者の指導のもと安全作業に努めていただきますようよろしくお願いたします。また今年も湧水対策が必要になると思われますので、5工区の代かき水の有効利用並びに全圃場の水管理の徹底を推進したいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。



あかつきファーム今在家視察

企画部長 坂田宣雄

平成27年12月17日出雲市斐川町今在家に「農事組合法人あかつきファーム今在家」を訪問しました。同法人は島根県で最初の平成15年3月に法人化された組合です。概要は組合員数83名、経営面積76ha、主力作物は水稻で特産物栽培にも取り組んでいる法人であり、のきの郷の規模のほぼ半数であります。あかつきファーム今在家の特徴と



して特産品栽培があり特にブドウ、イチゴを中心に栽培し、観光農園としての成果もあがっています。春には斐川町のチューリップ祭りに協賛し地区内での観光にも一役買っておられます。

今回の視察研修では特に「出役」について協議いたしました。問題点には組合員の高齢化による出役者の減少があり、特産品栽培にかかわる若手専門職員の採用、人材バンク活

用などで乗り切っておられるということで大変参考になりました。のきの郷でも若手専門職員の確保については、今後の大きなテーマと感じました。

いらっしやいませ(視察)

1月27日 出雲農林高校
美味しまね認証
1月29日 農水省農地資源課
石橋課長様 他
圃場整備事業



間に化けて酒屋に行つて酒を飲んじよつたと。ある晩荒島の岩田という親方との寅さんが歩いちよつたら「おい、寅公」と呼び止める人がおつて見ると人間に化けた源太郎ぎつねがおつたと。「なんだ源さんか。なんか用かいね」「お前さん毎日仕事かえらかろう。今夜はおらがごちゃあけん安来に行かこい。」と誘つたすこだ。寅さんは「そらよからぞやい。行くで」と二人で安来の料理屋でこつとおを食べお酒を飲んでそのまま寝込んでしまったと。朝になり目を覚ました寅さんがあわてて帰つたけん女中さんはもう一人のお客はどげしちようかと部屋に行くとキツネが寝ちよるのを見ておべてしまつてがいな声で騒ぐだけん源太郎ぎつねはあわてて部屋をとんで出て帰つて行つたげな。』



その他に日露戦争のとき戦場で源太郎ぎつねに助けられたという話もありました。不思議ですね。

ちよっこし聞いて

今年もよろしくお願ひします(や)

通常総会の知らせ

第3期通常総会を左記日程にて開催いたします。組合員の皆様からの幅広いご意見や感想をいただき今後の経営方針など決定していきますので多数のご参加をお願いいたします。

- ・ 監査会 1月30日(土)
- ・ 資料配布 2月6日予定
- ・ 通常総会 2月14日(日) 午後2時より
- ・ 総会会場 能義交流センター

地域探訪

幼いころ昔語りで源太郎ぎつねの話を知り、吹雪のなか飯生から赤崎の道を源太郎ぎつねに化かされて違つところを歩かされた、というよくな自分が間違えただけじゃないの?といった話が多かったので『能義郷土史』でちよつとかわいらしい源太郎ぎつねの話を見つけたので出雲弁に変換して紹介します。

『源太郎ぎつねは人間に化けるのがとても上手で酒が欲しなると人

一口メモ

2月3日は節分です。節分は邪気(鬼)を払うということ。豆まきをしますが、鬼(こ)として角があつてトラのパンツをはいているのでしよう。それは「鬼門」に由来するそうです。「鬼門」は鬼の出入りする方で「北東(良)」「南西(丑)」「東(間)」になります。そのため、古来鬼は「牛」の角をもつた姿で「虎」のパンツを身に付けているといわれています。